

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年11月13日

協議会名：俱知安町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
俱知安町	<p>①東西ルート（市街地東西循環） ②東西ルート拡大 (市街地東西循環 ・DCM俱知安店経由) ③東西ルート快速 (市街地東西一部循環) ④東西ルート拡大・旭ヶ丘経由 (市街地東西循環・旭ヶ丘・ ・DCM俱知安店経由) ⑤東西ルート快速・旭ヶ丘経由 (市街地東西一部循環 ・旭ヶ丘経由) ⑥南北ルート（市街地南北循環） ⑦南北ルート拡大 (市街地南北循環 ・DCM俱知安店経由) ⑧南北ルート快速 (市街地南北一部循環) ⑨南北ルート・旭ヶ丘経由 (市街地南北循環・旭ヶ丘経由) ⑩南北ルート拡大・旭ヶ丘経由 (市街地南北循環・旭ヶ丘・ ・DCM俱知安店経由) 運賃:100円(中学生以下無料)</p> <p>●安全安心な公共交通を確立すべく、運転手との意見交換会を実施 ●じゃがりん号の使い方(利用方法)を広く周知し、利用したことのない町民に対し、利便性高い公共交通ということを認識させた。</p>		<p>A</p> <p>計画している運行日数、運行回数どおりに実施した。</p>	<p>夏期には徒歩や自転車の利用で、バス利用者が少なくなるが、冬期に利用者が増加する傾向にあった。東西ルートでは若干の減少傾向にあるが、南北ルートでは増加傾向にある。全体乗車数は、目標値27,767人に対し、27,393人(達成度98.6%)、運賃収入は、目標値2,197,400円に対し、2,239,607円と(達成度101.9%)目標値をやや超える結果となった。</p> <p>＜各系統の目標値と実績値＞</p> <p>①東西ルート:4.5人⇒1.4人 ②東西ルート拡大:16.9人⇒7.5人 ③東西ルート快速:11.9人⇒3.5人 ④東西ルート拡大・旭ヶ丘経由:11.9人⇒6.4人 ⑤東西ルート快速・旭ヶ丘経由:5.0人⇒5.5人 ⑥南北ルート:5.9人⇒3.8人 ⑦南北ルート拡大:8.3人⇒4.2人 ⑧南北ルート快速:3.5人⇒1.5人 ⑨南北ルート・旭ヶ丘経由:2.1人⇒2.7人 ⑩南北ルート拡大・旭ヶ丘経由:7.0人⇒4.3人</p>	<p>【利用促進・利便性】</p> <p>○ルート・ダイヤ改正から8年が経過し、これまでの運行実績や実情に応じ、「集まる場所」へのルート・ダイヤ設定など、様々な方向から運行方法について検討する。</p> <p>○じゃがりん号の使い方(利用方法)を広く周知し、利用したことのない町民に対し、利便性の高い公共交通ということを認識させる。</p> <p>【財源確保】</p> <p>○車体への協賛広告など、大手企業からの広告収入の検討</p>

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年11月13日

協議会名:	俱知安町地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>俱知安町は、北海道・後志地方の中央に位置し、秀峰「羊蹄山」の麓にある人口17,114人（令和7年1月1日現在）の町である。昭和47年12月20日には「スキーの町宣言」をし、冬には上質のパウダースノーを求め、国内外から多くの観光客が訪れる、北海道を代表する国際リゾート地である。</p> <p>俱知安町市街地では、幹線道路をルートとする地域間幹線系統の運行があるものの、市街地住民にとって、生活交通としての利用が限定される路線であったことから、市街地における公共交通不便地域の解消とJR俱知安駅でのJR函館本線、他の地域間幹線系統との接続に対応する公共交通として、平成24年4月から“まちなか循環バス「じゃがりん号」”を通年運行している。</p> <p>「じゃがりん号」は、通年運行以来、市街地の高齢者や乳幼児を連れた主婦層の「生活の足」として、必要不可欠な移動手段になっていることから、地域公共交通確保維持事業により、今後も確保・維持していきたい。</p>